

# 2年 国語

## 本は友だち

番組名 「おはなしのくに」

放送回 「みにくいあひるの子」

実践者 さいたま市立仲町小学校 教諭 鶴田 裕子

挿絵、イラスト、美しい音楽とともに物語の読み聞かせを楽しみながら、物語の世界にじっくりと浸ることができる番組です。

### 番組の使い方

#### 活用のねらい

- 継続視聴して、物語の楽しさを味わうことにより、イメージを膨らませ、自分の思いや考えを豊かに自分らしく表現できる力を育てていきたい。
- 番組を活用すると、読書能力の差が少なく、みんなが同じ土俵で授業ができる。

#### 具体的な手立て

##### まるごと視聴（10分間）

##### 継続視聴

番組名とタイトルと作者を伝えて、すぐに番組を視聴する。余計なことは言わない。同じ土俵でスタートできる！



### 授業の概要（1/2時間目）

#### 単元の目標

- 「おはなしのくに」の番組を活用して、物語を楽しむことができる。

#### 番組視聴（10分）**雰囲気大切！**

- 視聴環境を整え、画面に注目させるようにする。
- メモはとらない。
- 表出した児童の内面（つぶやき、笑い、会話など）を大切にする。
- 担任も一緒に番組を楽しむ。

#### 番組をみて、好きな方法で表現する。

（感想文、絵、手紙、葉、絵本、四コマ漫画、続き話、カルタなど）

#### 隣の友達と交流する。

（2～3人組で交流する。）

#### 全体で交流する。

- 友達の表現のよさを発表する。
- 自分の感想を発表する。
- 好きな方法で発表する。

#### 本を知る。

- ブックトークを行う。

### 生き生きと学ぶ子どもの姿

笑ったり、泣いたりしながら、**番組を真剣に**視聴し、物語の世界に浸っている。

スケッチブックに感想をかいた後、友達の真似ではなく、自分で選んで表現を楽しんでいる。**もっと絵をかく時間がほしい**という要望があった。

隣同士で交流するので、自分の思いを伝えやすく、安心して発表したり、全体では、友達の作品や自分の作品を**にこにこ笑顔**で発表したりしている。**学ぶ喜びを感じているようであった。**

**前より本を読みたいと思うようになった。**

視聴から感動

友達と共感

### 指導を終えて

2回のアンケートの結果から、全員が**この授業が楽しい**と答えている。読書が苦手な子も映像と音楽で想像の世界へ容易に入ることができ、物語の楽しさを味わうことができるからである。番組の特性を活かし、自分の好きな表現で楽しみ、仲間と伝え合うことができる授業だからこそ、子どもたちが「生き生き」と学ぶことができる姿になったといえる。

